

F2-7

## 事業者パンフレットにみる水上交通の運航航路と事業特性に関する研究 A Study on the Operating Characteristics and Business Characteristics of Water-Traffic Read from Brochure

○小山美和子<sup>1</sup>, 岡田智秀<sup>2</sup>, 田島洋輔<sup>2</sup>

\*Miwako Koyama<sup>1</sup>, Tomohide Okada<sup>2</sup>, Yousuke Tajima<sup>2</sup>

Abstract: The purpose of this paper is to clarify the business characteristics and brochure morphological characteristics of Tokyo water-traffic from their brochures. As a result, it clarified the typical routes and four business classifications.

**1. 研究目的** ; 2020 年の東京五輪開催に向けて都内水上交通に注目が集まっている<sup>1)</sup>。かつて都内には複数の水上交通が運航していたが 10 年以上にわたり継続運航された事例は極めて少ない<sup>2) 3)</sup>。しかし、都内水上交通は非日常感あふれる都市観光の一方策と捉えるならば、持続的事業として発展させるべきと考える。既存研究をみると、都内水上交通の発展を目指して海上景観特性や船着場活用策を探索した研究<sup>4) 5)</sup>やナイトクルーズの運航システム等を論考した研究<sup>6)</sup>等がある中で、都内水上交通の事業特性を網羅的に捉えた研究はみられない。そこで本研究では、都内水上交通の持続的発展に資する事業特性を捉えるために、都内水上交通事業者のパンフレット(以下;パンフ)を対象に、各事業の運航目的や代表的航路等の特徴およびパンフの形態特性を明らかにすることを目的とする。

**2. 研究方法** ; 都内水上交通事業者の事業特性やパンフ特性を捉えるために、表1に示す調査を実施した。

**3. 結果および考察** ; 東京湾内で水上交通事業を実施している 21 社のうち調査協力が得られた 11 社全 82 コースを対象に、コース別の特徴やパンフの特徴を整理したものが表2である。また、コース別航路の分布状況を示したものが図1である。以降は、これらをもとに考察する。

**(1) 代表的な航路** ; 図1より、利用が最も多い航路は「芝浦⇄青海区間(9社33航路)」次いで、「青海⇄有明区間(7社25航路)」,「神田川合流点⇄芝浦区間(6社15航路)」であり、隅田川から東京港内に集中している。これは、1997年頃から20年以上も継続運航されてきた水上バス航路<sup>3)</sup>と重なる。一方、利用数は少ないが日本橋川(3社11航路)や京浜運河(2社7航路)等の利用も確認された。これは、2002年の江東区水上バス廃止<sup>3)</sup>を契機に減少していた中小河川その他、新たに運河を活

表1 調査概要 [筆者作成]

Web 調査	
調査期間	2018年7月2日(月)~8月3日(金) 約1ヶ月間
調査対象	東京湾内においてクルーズ船事業を展開する事業者の公式ホームページ
調査内容	事業者の営業情報(連絡先等), Web 上での事業コース情報(ルート, 費用等)
パンフ分析	
調査期間	2018年8月3日(金)~9月14日(金) 約1ヶ月間
調査対象	調査協力が得られた11事業者のパンフおよびチラシ(2017年以降の発行物)
調査内容	・営業情報: 運航会社名, 運行コース名 ・事業特性: 運航目的, 運航範囲, 所要時間, 運航料金, 乗船人数等 ・パンフ特性: パンフ形態, 記載内容, 写真枚数等

用した航路であり、江戸城石垣群や工場夜景を鑑賞する等、単なる移動ではなく付加価値のある運営が行われている。

**(2) 事業分類** ; 全 82 コースをタイプ別に 4 つに分類した。以降では、各事業分類の特徴について述べる。

**1) 飲食クルーズ型** ; これは、ランチやディナークルーズ等の飲食目的の事業であり、事業分類のうち最多の 7 社 31 航路 (38%) を占める。平均所要時間<sup>(1)</sup>は 116 分, 30 分当たりの料金<sup>(2)</sup>は 2,176 円であった。事業特性は、表2より、全てのコースで海を利用し、8割以上が乗船人数 100 名以上の大型船が利用される。パンフ掲載写真は船の外観および内観、食事が 8割以上と多い一方で、周辺景観は 7割程度と比較的少ない。このように、当分類では、船上から見た周辺景観や非日常性よりも大型客船の乗り心地や豪華な食事等が強調される傾向が伺えた。

**2) 景観体験型** ; これは、羽田空港の航空機や工場夜景

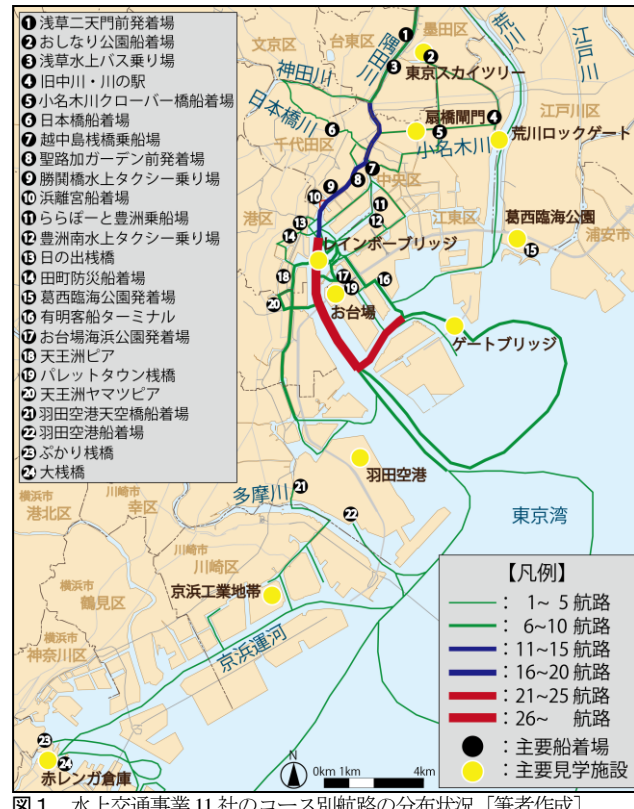


図1 水上交通事業 11 社のコース別航路の分布状況 [筆者作成]

1 : 日大理工・学部・まち 2 : 日大理工・教員・まち

